

いろは歌 (実はすごい歌)

「いろはにほへと ちりぬるを」→「色は匂へど 散りぬるを」

「香り豊かで色鮮やかに咲き誇る花も、いずれは散ってしまう」という意味で、「諸行無常」を表していると言われています。

「わかよたれそ つねならむ」→「我が世誰ぞ 常ならむ」

「この世に生きる誰しもが、いつまでも生き続けられるものではない」という意味で、「是生滅法」を表していると言われています。

「うゐのおくやま けふこえて」→「有為の奥山 今日越えて」

「無常で有為転変の迷い、その奥山を今乗り越えていく」という意味で、「生滅滅已」を表していると言われています。

「あさきゆめみし ゑひもせず」→「浅き夢見じ 酔ひもせず」

「悟りの世界に至れば儚い夢を見ることなく、仮想の世界に酔うこともない安らかな心境である」という意味で、「寂滅為楽」を表していると言われています。

皆さんご存知の「いろは歌」は意味深く人生を語る歌というのはご存知ですか？

おそらく、昔の人が手習いの為、あいうえおの代わりに使っていたぐらいしか、知らない人も多いのではないのでしょうか？

いろは歌の「いろは」とは初步に習得しておくべき事という意味も持ち、またその仮名の配列は字母表の「いろは順」として、中世から近世の辞書類や番号付け等に広く利用されたいる。

いろは歌は七五調の韻文として作られており、仮名を重複させずに使って作られている誦文(ずもん)のことです。いろは歌の意味については諸説あるのですが、いろは歌は悟りの歌として、仏教の経典「涅槃経」の一部を詠った歌だという説が広く信じられているそうです。

47音重複なし(今ではんを入れて48音)

いろは歌は七五調を4回繰り返す今様という形式を守りながら、その上で仮名を1回ずつ重複させずに使うという制約を守って作られているのが特徴です。

まず仮名を重複させずに使うというだけでも難しいのに、それを4回組み込み、さらには歌としての意味もしっかり持たせているのです。つまり、いろは歌はとても考え抜かれて作られている歌でもあると言えます。また、先にも述べましたように、47音全て重複なしで作られているにも関わらず、しっかりと意味のある歌として成立しているのです！

「諸行無常 是生滅法」「生滅滅已 寂滅為楽」の教えを47音で表現されている。